

珊瑚と褐虫藻

珊瑚の骨格は堆積した厚い石灰岩層に横たわり巨大な「炭素の貯蔵庫」で大気中の二酸化炭素の吸収能力（炭素固定）を期待されている。珊瑚礁へのダメージは、地球の炭素循環システムを狂わす可能性もあるといわれるくらい注目されている。サンゴに共生する渦鞭毛藻類「褐虫藻」（直径10ミクロン）は光合成で生産するエネルギーの10～60%、種によっては90%を搾取してエネルギーの半分はサンゴの成長に使われ、残りは粘液として対外に放出される。

葉緑体を並び替えて陰を作ってみたり、無駄な光エネルギーを安全に放出するような保護機構を色々持っている。褐虫藻は、見返りとしてサンゴから安全に生息する空間をもらっている。またサンゴは紫外線を吸収したり、可視光に変える色素を持ち、体内に住む褐虫藻を守っている。ナサの宇宙船は水分の補給に自分の小便を清水に変えて飲料している。この装置にサンゴが使われている。サンゴは雑菌を吸収死滅するパワーがある。

人体にとってメタンハイドレートとはまた違った効力を示すのではないかと考えてカラーを作り次のような実験をしてみた。杉花粉症に対して杉花粉2でもはっきりしない場合サンゴを追加することにより即座に改善を診ることが出来た。アレルギー反応の強い患者ですぐバンソウコ負けするタイプには反応点が多い場合出来ない。

その場合にサンゴを用いることにより非常に少ない反応点のみで充分出来るメリットがある。またガン性疼痛にも、ガン、不老長寿、と同時にサンゴを併用すると疼痛緩和に威力を発揮する。マグマも効くがマグマはあくまで、テロメアーゼに反応しない痛みに限られる。面白い例として、2年前に覚醒剤をやめたが禁断症状があり苦しいとのことで、好酸球、好中球、好塩基のほかに覚醒剤サンゴは反応する。それぞれの強弱を調べるとサンゴだけでも可能であるほど数値は下がるがやはり反応したカラーは貼付した方が結果はいい。また、杉花粉症にも杉花粉2を貼付し1カ所だけ反応点にサンゴを用いるとより一層の効果が上がることが分かった。マトリックスも7,00Hzト下がり早い人でははった途端に自覚症状のか改善が見られることもしばしばである。

このようにいろんな疾病に反応するので、使用方法によって、大きな効果を発揮する頼もしいカラーである。

生きたミドリイシ属の健康なサンゴ。先端の白い部分はポリプ（触手で体表の粘液でプランクトンを捕らえる。）

実際に杉花粉症の患者さんに杉花粉 4 のカラーにメタンハイドレートを貼付すると途端に症状の改善が見られることがあるまさに即効性である。しかしなかには 2 , 3 日でもとに戻る人もいる。同じ杉花粉でも個人差によることが分かった。そこでサンゴを使用すると症状の改善が日毎によくなっていくことは、メタンとまた違った効用が見られる。また毎年、杉花粉に悩まされる患者さん数人に 2 月の初旬から用心のために杉花粉を貼付してしてきた人は全員杉花粉にかからないと言う結果を得た。予防処置としてワクチン以上の効果が期待できることも分かった。従って好酸球が影響するアレルギー疾患、気管支喘息等にも当然サンゴは効果を発揮するものと期待している。

参考文献 : 『サイアス』
04